

大学教育における主体性をはぐくむ授業の創造 : SDGsからの課題研究型授業の実践と評価

著者	野中 繁
著者（英）	Nonaka Shigeru
雑誌名	武蔵野教育學論集
号	8
ページ	121-130
発行年	2020-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001298/

大学教育における主体性をはぐくむ授業の創造

～SDGsからの課題研究型授業の実践と評価～

Creation of Classes for Nurturing Independence in University Education

: Practice and Evaluation of Research Project on SDGs

野 中 繁^{*}
NONAKA Shigeru

1 研究の目的

大学の授業を変えることが求められて久しい¹⁾。大学においても講義一辺倒の与えるだけの授業から、限られた時間の中でより主体的で深い学びの場となるよう授業の構造改革が求められている。特に教育学部においては、これから教師になる学生たちが、子どもたちに主体性を育む授業をしていかななくてはならない、そのために、自らが主体的に取り組む授業を経験しておくことは必須である²⁾。

私はこれまで、「理科における探究活動や、高等学校における課題研究を、多くの生徒に広げること」を自身の研究テーマの一つとしてきた^{3) 4)}。

生徒が主体的に取り組む授業の工夫は様々であり、発達段階や教科によっても異なる。しかし、発達段階に応じて、どの教科でも共通に取り組むことができ、最も主体的な取り組みが予想される授業形態は課題研究であると言っても過言ではない。課題研究とは、小・中学校では発展学習、自由研究、探究活動等ともよばれる、自らテーマを設定し、(仮説を立て) 探究していく活動である。大学においては一般に卒業論文が課題研究にあたる。しかし、そこでは自らの興味・関心から出発するというよりも、より狭くより深く、高い専門性に基づく研究を行うことが主眼になる。卒論研究の前に、よりグローバルな視点から、自らの興味・関心に基づいた主体的な学びを課題研究として導入することが必要だと考えてきた。そこで、武蔵野大学における授業の中に課題研究を取り入れ、学生の取り組み状況を解析し、成果と課題をまとめることを本研究の目的とした。

また、課題研究を始めるにあたって、まずは学生たちが自らの課題を把握し設定することが重要であるが、この課題設定に戸惑う学生が予想以上に多い。その理由として、本学教育学部生への事前調査の結果、大半の生徒が小学校での夏休みの自由研究を最後に、中学校でも高等学校で

^{*} 武蔵野大学教育学部

も課題研究型の自らテーマを設定して活動する形式の授業経験がほとんど無いことがあげられる。加えて、昨年度、大学において試行的に課題研究を実施した時にも、学生に自由に考えさせると、問題を把握し、課題を設定することが難しいことが判明した。自分が興味をもち調べてみたいテーマが出てこないのである。課題把握をより円滑に行うための方策を考える必要があることが判明した。

ところで、本学が大学を挙げて取り組んでいるSDGsは⁵⁾、一言で言えば世界的な様々な課題を集積したものである。つまり、SDGsを知ることは、グローバルな課題に目を開き、自分の足元から課題を考えることである。そこで、私はSDGsを課題研究の入口として課題把握に用いることを考えた。SDGsを知ることを通して、課題とは何か？課題にどのように対応するのか？を掴むきっかけになり、それを出発点に、自らの課題を捉えることにつながると仮定した。そこで、今年度、実際の大学における授業において課題研究およびSDGsを用いた課題設定の導入を実施しその成果と課題を把握することを目指した。

2 研究仮説

以上のことから、本研究における仮説として次の2つを設定した。

【仮説1】課題研究は大学における主体性をはぐくむ授業として有効である。

【仮説2】課題研究の冒頭にSDGsを考える活動を位置付けることにより、自らの課題を捉えることが、より容易になる。

3 授業実践

今年度は、学科入門ゼミ（教育学部の1年生全員対象）と教職実践演習（4年生全員が対象）の2つの授業で、課題研究を実施した。以下にそれぞれの実際の授業での課題研究への取り組みの概要を記した。

（1）学科入門ゼミにおける取り組み

学科入門ゼミは、教育学部の1年生全員（約120名）を対象に教育学部への入門という位置付けで実施している学科の必須科目である。今年度は、従来とは大きくシラバスを変え、「志を掲げ、書を読み、人と交わる」という松下村塾での吉田松陰の教育目標を基に、従来から実施していた学校訪問等に加え、ポートフォリオの作成、ビブリオバトルの開催、課題研究の実施等の新たな取り組みを加え、基本はクラスごとにアドバイザーが授業を行う形式で進めている。今年度の学科入門ゼミの年間の実施計画を表1に示した。学科入門ゼミの後半に、概ね10時間程度、課題研究を置いている。課題研究の授業では、実際に以下のように授業を実施している。

ア 課題研究を始めるにあたって（1～2時間目）

初めに、課題研究をどのように進めるかについての概説を行った。その際に使用した「課題研究ノート」を図1に示した。

冒頭にSDGsの紹介を行った。SDGsに関しては、教員側からはこれ以上の資料は渡して

いない。グループワークとして、自分たちでインターネットを用いてSDGsについて検索して調べることを課題とした。そして、その中で興味をもったものについて焦点を絞り、自由にディスカッションする場を設けた。私の担当するクラスでは、SDGsの17個のゴールを「みんなで話し合って、大切な順に並べてみる」というワークを推奨した。教育の視点からSDGsを捉え、「SDGs for School プロジェクト」のことや、17の目標のそれぞれについて、一人一人別々の多様な興味・関心をもつことが興味深いと授業のふりかえりに記入した学生が多かった。一人一人の個性やこれまでの経験から出てくる多様な価値観が現れ、意義のある話し合いになった。もう少し討論の時間を設定できれば、より深い探究ができたと思う。全ての学生が、SDGsに初めて触れ、興味をもって調査しディスカッションしている様子が観察でき、その結果、私のクラスでは10班中10班がSDGsをベースにした研究テーマの設定になった。






表1 平成31年度学科入門ゼミ年間実施計画

平成31年度学科入門ゼミ年間実施計画									
科目名	学科入門ゼミ（教育学科）			対象学年	1年	開講時期	通年		
担当教員	安達光樹（A組）、小野渡太郎（B組）、野中 繁（C組）、伊藤照子（D組）					開講曜日・時限	月曜日5限		
知識・専門性の到達目標	教育をめぐる諸テーマに触れ広く学び、教育及びその関連領域に関する基礎的な知識を持つ。								
関心・態度・人格の到達目標	教育をめぐる諸テーマに関して広く関心を持ち、教師としての自らのあり方について考えようとする。								
思考・判断の到達目標	教育をめぐる諸テーマについて、学んだことをもとに多角的な視点で考えることができる。								
実践的スキル・表現の到達目標	教育をめぐる諸テーマについて、他者と話し合ったり自らの考えを明確に話したり書いたりすることができる。								
評価方法	課題提出：60％ / 課題発表：20％ / その他：授業内課題への取り組み状況 20％								
・教育学科として、1年次の学科入門ゼミから2年次の発展ゼミ、3・4年次の研究室ゼミは、一貫した教育者育成プロセスである。									
・1年次の学科入門ゼミで身に付けたいものは、①志を掲げ、②書を読み、③人と交わる（自ら学ぶ力の基礎を、グループでの課題研究等も含めて身に付ける）こと。									
※下記の日程以外に、各自で日程を決めて取り組む「小学校見学」のプログラムが入る。									
・①「志」は、学部長をはじめ、担任や講師が所に関わり問いかけ考えさせていく。									
・②「書」は、読書の習慣を身に付けることをねらいとする。四六時中スマホ生活から脱却させる！教育学部の生徒はバスの中でスマホではなく本を読んでいると言われた。そのため、☆図書館と連携し図書館の活用を促進するとともに、☆ポートフォリオとして学科入門ゼミのノートを作成し、そこに読書記録を記入する（目標：年間読書10冊を必ず達成する！）。☆授業でビブリオバトルを取り入れ、2シーズン実施し、全体発表会も行い、読書への興味を育む。									
・③「人」については、少数人のグループによる課題研究を通して育成する。グループ研究である点が3・4年次の卒論等の研究とは異なる。協働して課題解決する力、コミュニケーション能力の育成を目的とする。									
回	月日	学校	内容（急遽変更になることがある。MUSCAT等で連絡する。）	教室					
				A組	B組	C組	D組		
1	4月15日	教育学科で学ぶ	上岡学部長、廣瀬学科長講義					1102	
2	4月22日	事前課題を活用した授業・小学校見学の説明	事前課題の振り返り・小学校見学の方法・図書館オリ					8304	
3	4月29日	各クラスオリエンテーション	本授業の目標・内容・評価	7202	7203	7205	7208		
4	5月13日	ビブリオバトルseason1-1	教員などによる模範バトル+図書館オリ					8304	
5	5月20日	ビブリオバトルseason1-2	クラスを3つに分けた小グループでチャンプ本を決める	7202	7203	7205	7208		
6	5月27日	ビブリオバトルseason1-3	チャンプ本による全体バトル					8304	
7	6月3日	専任教員による講義（A組担任）	1学年アドバイザーの講義					8304	
8	6月10日	専任教員による講義（B組担任）	1学年アドバイザーの講義					8304	
9	6月17日	1学期の振り返り	クラスごとの時間・ノート提出	7202	7203	7205	7208		
10	6月24日	個人面談						担当アドバイザーの研究室	
11	7月1日	専任教員による講義（C組担任）	1学年アドバイザーの講義					8304	
12	7月8日	専任教員による講義（D組担任）	1学年アドバイザーの講義					8304	
13	7月15日	ビブリオバトルseason2-1	前回は別の小グループでチャンプ本を決める	7202	7203	7205	7208		
14	7月22日	ビブリオバトルseason2-2	チャンプ本による全体バトル					8304	
15	7月29日	小学校見学の振り返り+交流会①	各クラスでのふりかえり・ノート提出	7202	7203	7205	7208		
16	8月5日	個人面談						担当アドバイザーの研究室	
17	9月23日	後期の授業について、入学前学習課題からの基礎力確認テスト						8304	
18	9月30日	課題研究の進め方	研究の進め方・まとめ方について理解する。					8304	
19	10月7日	研究テーマ設定	グループ編成。Gごと追求するテーマを決める	7202	7203	7205	7208		
20	10月21日	研究テーマ発表	決定したテーマや研究計画を発表する	7202	7203	7205	7208		
21	10月28日	研究調査①	*日程詳細未定？：救急救命法講習（クラス毎）が臨時に入る	7202	7203	7205	7208		
22	11月4日	研究調査②		7202	7203	7205	7208		
23	11月11日	研究調査③	発表準備（PP、AO模写紙など）	7202	7203	7205	7208		
24	11月18日	研究調査④	発表準備（PP、AO模写紙など）	7202	7203	7205	7208		
25	11月25日	3学期の振り返り+交流会②	クラスごとの時間・ノート提出	7202	7203	7205	7208		
26	12月2日	個人面談						担当アドバイザーの研究室	
27	12月9日	研究成果発表会1	クラス別発表会①	7202	7203	7205	7208		
28	12月16日	研究成果発表会1	クラス別発表会②	7202	7203	7205	7208		
29	12月23日	研究成果発表会1	クラス別発表会③	7202	7203	7205	7208		
30	1月6日	課題研究の振り返り	全体発表会					8304	
31	1月20日	学科入門ゼミのまとめ	各クラスでの活動・ノート提出	7202	7203	7205	7208		
32	1月27日	個人面談						担当アドバイザーの研究室	

イ リサーチクエスションの設定

SDGsによる課題把握の後、自らの課題設定を行う。課題はリサーチクエスション即ち疑問形で設定するように指示している⁶⁾。テーマをクエスションにすることで、自分の足元からの課題に落とし込むことができる。“Think Globally, Act Locally.”の理念である。

図1 課題研究ノート（実際は記入式で2ページにわたるものを縮小して表示した。）

課題研究ノート		学籍番号 名前	
STEP1	課題から研究テーマを決める 社会・学術の課題から自ら研究テーマを決める。 答えの用意されていない課題に挑む。 ①まずはSDGsの理解から始めよう！SDGsをインターネットで検索してみよう。 ②グループで話してみよう。自分の立ち位置で考えてみる。自分の身の回りに目を向ければ課題が広がる。 ③THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY.	設定した研究テーマ	
			
STEP2	リサーチクエスションを設定する 先行研究や事例を収集する レサーチクエスションを掘り下げていく。→「どこ？」「だれの？」「いつの？」「どのように？」。 具体的なリサーチクエスションを設定する。	設定したリサーチクエスション	
			
STEP3	仮説を立てる リサーチクエスションに対して、自分なりにこうではないかという答えをもつ。これが仮説である。 仮説を立てることで、どのような調査・研究をすればよいかが見えてくる。	仮説	
			
STEP4	研究計画を立てる 仮説を証明するためにどのような調査や実験を行えばよい？研究計画書を作成する。	研究計画	
			
STEP5	調査・実験をする 研究計画をもとに調査・実験を行う。立てた研究改革は必ずしもそのとおりに行くわけではない。軌道修正も必要だ。	調査・実験とその結果	
			
STEP6	結果をまとめ、考察する 得られた結果から仮説を検証する。場合によっては、データから新たな問いや仮説を立てる必要があることも。	結果のまとめ・考察	
			
STEP7	発表する(論文、プレゼン) 結果をまとめて論文にする。課題研究の結果を発表する。 ・研究報告書提出1/13(月)まで切(A4版1枚)、①学籍番号、②名前、③テーマ、④リサーチクエスション(表題)、⑤仮説、⑥研究結果、⑦まとめと考察、⑧参考文献、を必ず記入。	レポートの作成・発表・共有	

ウ 研究の結果

最終的に我がクラスの研究課題は以下になった（表2）。SDGsを課題研究の入口と捉え、そこから自分たちの疑問へと課題を広げている様子が推測できる。

表2 研究テーマ一覧（令和元年度1年C組、全10班）

班	研究テーマ	関係する主なSDGsのゴール
1	貧困女子を増やさないために私たちに何ができるか？	1 貧困をなくそう
2	私たちが目指す「教育」とは？教育格差はどうして生まれるか？	4 質の高い教育をみんなに
3	女性の権利～国際社会との比較において～	5 ジェンダー平等を実現しよう
4	子育てしやすいまちづくり～武蔵野大学の学生で近隣の待機児童を0にできるか？	11 住み続けられるまちづくりを
5	調理時に食品ロスを減らす実践的研究	2 飢餓をゼロに
6	昨今のいじめの変化と対策～予防策はないのか？～	4 質の高い教育をみんなに
7	貧困の連鎖を抜け出す方策～所得の低い家庭の子どもが将来的にも低収入である実情に即して～	1 貧困をなくそう
8	日本のジェンダー問題について～アイルランドとの比較から見えるもの～	5 ジェンダー平等を実現しよう
9	全ての大学生が健康でいられるために～大学生の一人暮らしと実家暮らしの健康状態の差はどのくらいだろう？	3 すべての人に健康と福祉を
10	教育の平等性について～オンライン学習は教育の平等性をもたらすことができるのではないだろうか？～	4 質の高い教育をみんなに

エ 研究の実際

結果の例として、7班の発表用スライドの一部を抜粋したものを以下の図2に示す。SDGsから出発して自分の足元の問題として深めていこうとする様子を見とることができる。

図2 C組7班の研究結果の概要（研究発表の資料から一部を抜粋）

貧困の連鎖を抜け出す方策
～所得の低い家庭の子どもが将来的にも低収入である実情に即して～

宇賀神 渡邊 武藤

きっかけ

- ▶ SDGsにおける1・貧困をなくそう、4・質の高い教育をみんなに
- ▶ 身近な問題から取り組むことで、将来的に視野を広げた層に足掛かりになると考えたため

仮説 ～親の所得の低さがなぜ子供にも影響するのか～

- ▶ 大学進学が困難なため所得の高い職業に就きにくい（金銭的・社会的要因）
- ▶ 将来の見通しが暗いため、学習意欲が引き起こされない（心理的要因）
- ▶ 核家族化の進行で両親の親からの援助が受けにくい（社会的要因）

結論
～教師を目指す私たちにできることは～

貧困の連鎖からの脱出
状況の突破力
児童にとってストレスフリーな環境

(2) 教職実践演習における取り組み

同様に教職実践演習においてもSDGsをベースにした課題研究の授業に取り組んでいる。この科目も履修者が100名ほどいるので、全体を2グループに分け、3人の教員がオムニバス形式で授業を行っており、課題研究に充てる時間は5時間（5週連続）である。

ア 教職実践演習における課題研究の取り組み

教職実践演習における課題研究の概要を示した資料を次ページ図3に示す。こちらも前出の学科入門ゼミ同様、SDGsについての調査研究とディスカッションを課題設定時の推奨課題としている。その後の課題研究の進め方も学科入門ゼミとはほぼ同様であるが、学科入門ゼミがグループ研究としているのに対して、教職実践演習は個人研究としている点、総授業時間数が約半分の5時間としている点が異なる。

どちらの授業も、最後に公開の研究発表会を位置付けている。このようなハレの場を設定することは課題研究にとって大切なことである。

イ 教職実践演習におけるアンケート調査について

今年度、教職実践演習の前半は既に終了しており、課題研究終了後、ふりかえりも兼ねたアンケート調査を記名式で実施している。成績には一切関係が無いので思うままを書いてもらうよう記載・指示している。アンケートの文面・内容は以下の通りである（表2）。

表2 教職実践演習で実施したアンケートの内容（対象、B講座全生徒51名）

※記入欄の一部を省略してある

"☆Season1の振り返り

Season1では課題研究に取り組みました。Season1全体について評価をしてください。

「○or文章」を記入！（以下は、私の授業についての評価です。みなさんの成績とは一切関係がありませんので、思うままを書いてください。）"

Q1 課題研究には意欲的に取り組みましたか？

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思えない 4 全くそう思えない

Q2 課題研究という学習法には意義(意味)があると思いますか？

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思えない 4 全くそう思えない

Q3 実際に課題研究に取り組む中で一番苦勞をしたのは(難しかったのは)どんな事ですか？
(自由記述)

Q4 課題研究の面白かったことや、良いところはどんな点だと思いますか？
(自由記述)

Q5 課題研究で課題と感じたのはどんな事ですか？

Q6 ☆その他、感想など (自由記述)

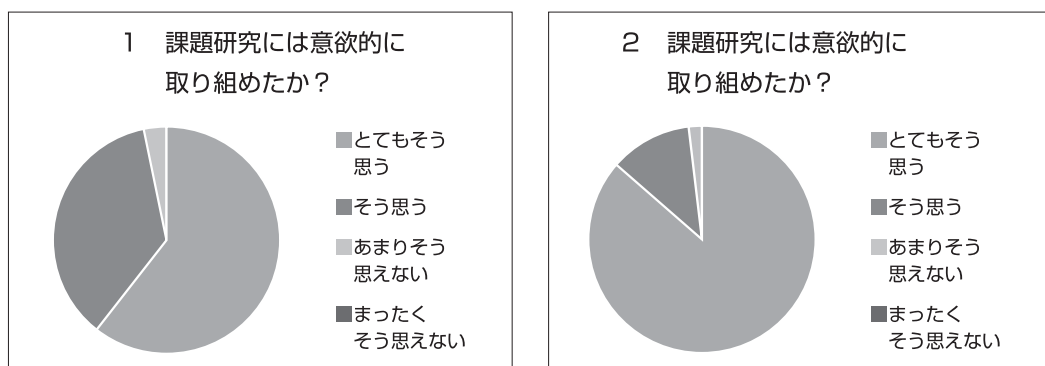
図3 教職実践演習における課題研究の概要

2019年度 教職実践演習(小・中・高)・B講座 【野中担当部分】 1209教室			
授業概要	「個人課題研究」では、自ら設定した課題・リサーチクエストを個人研究により探究し発表します。 そのねらいは2つ。1つは自らの課題の把握とできればその解決。2つは、これからの子どもたちに必要な課題解決力の育成を自ら体感することです。		
到達目標	自ら設定した課題・リサーチクエストを個人研究により探究し発表する。		
到達目標設定の理由	学校では日々様々な課題(正解のない問題)に直面します。さらに、これからは変化の激しい社会の中で、前例のない課題に対応することが必須の時代です。さまざまな課題がありますが、特に、下記のSDGsはこれからの全世界的な課題と言えます。 ならば、これからの教師に求められる力とは、学び続ける力や、課題解決力、さらには、探究的で研究的な学びを組織していく力と言えるでしょう。 課題解決力、「自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい知や価値を創造し発信する力」と定義します。 このような力を付けることを目標としています。		
授業の概要	<p>課題(テーマ)は自由です！自ら課題を明確に認識し、リサーチクエスト(研究で何を明らかにしたいのかを示す「問い」)を設定します。 設定したリサーチクエストに対する答えの予想を仮説と言います。仮説を立てることでのような調査・実験を行うべきかの見通しを立てることができます。その研究計画に基づいてリサーチクエストへの解答を探究し、研究結果をまとめ発表します。 自分自身の考察やアイデアなどで新たな知見を創造、探究することを目指します。 最終的に研究報告書を提出します。 締切日10月17日(木)。研究報告書には、学籍番号、名前、テーマ、リサーチクエスト、仮説、研究結果、まとめと考察、参考文献の記入を必須とします。</p> 		
成績評価の方法	・課題提出…(50)% ・課題発表…(50)%		
回数	月日	内 容	備 考
1	B・10/2	①ふりかえり～個人課題抽出～調査・研究～リサーチクエストの設定	・座席による約8人を1グループとする。グループ活動時には適当に座席を移動する。 ・本時の説明後、教室外での、例えば図書館やPC室での活動を認める。 ・時間終了時に本日のまとめレポートを提出する。
2	B・10/9	②リサーチクエスト～仮説の設定～調査・研究の立案	・本時の説明後、教室外での、例えば図書館やPC室での活動を認める。 ・時間終了時に本日のまとめレポートを提出する。
3	B・10/16	③調査・研究～研究報告書の作成	・本時の説明後、教室外での、例えば図書館やPC室での活動を認める。 ・時間終了時に本日のまとめレポートを7309研究室提出箱に提出する。・野中不在(樋口先生担当) ・10月17日(木)研究報告書提出メ切。
4	B・10/23	④グループ別研究発表会・研究協議会	・研究報告書をグループ分印刷。グループ内での発表を行い。最も全員で共有したい研究を1つ選ぶ。 ・時間終了時に本日のまとめレポートを提出する。
5	B・10/30	⑤代表者による全体発表会	・各グループ代表6名による全体報告会。研究報告書を全員分印刷。 ・時間終了時にSeason1のまとめレポートを提出する。

ウ 課題研究に関する生徒によるアンケート調査の結果について

課題研究終了後に4年生を対象に実施した課題研究に対するアンケートの結果を以下の図4にまとめた。課題研究という学び方についての評価として以下のようにまとめることができる。

図4 課題研究に関する学生評価アンケート調査とその結果（延べ数は回答の総数を示す。）



3 課題研究で一番苦労した（難しかった）ところは？

順位	課題研究を実施するにあたって苦労した（難しかった）ところ	延べ数
1	適切な探究可能な課題を設定すること	34
2	多くの情報を取捨選択すること	9
3	データをとるための研究方法を考えること	7
4	参考文献を探すこと	6
5	期限までにレポートを書くこと	14

4 課題研究で面白かった（良かった）ところは？

順位	課題研究を実施するにあたって面白かった（良かった）ところ	延べ数
1	自分が知りたいこと、調べたいことだから興味をもって調べられる	12
2	研究の面白さを知った。答えのない疑問を明らかにする過程の面白さ	10
3	自分で調べて得たことは定着した知識となる	7
4	教職について調べた人が多く、現場で即役立つものが多かった	6
5	みんなの個性がテーマに出て面白かった	5

5 課題研究で課題と感じたところは？

順位	課題研究を実施するにあたって面白かった（良かった）ところ	延べ数
1	一般的な調査で終わってしまった。自分の足元の課題までおとせなかった	10
2	調べた結果からさらに次の課題が見つかること	8
3	他の班の人も含め全員の報告を聞きたいと思った	4
4	結局、結論と思えるものを見出すことができなかった	4
5	どんどん課題が生まれ、調べても調べてもきりが無い	4

4 まとめと今後の課題

本研究における2つの仮説を検証する。

1 「【仮説1】課題研究は大学における主体性をはぐくむ授業として有効である。」について

（1）課題研究は大学における主体性をはぐくむ授業として有効か？

学生のアンケート調査の結果からは、課題研究という授業法に戸惑いながらも、興味を持って課題研究に取り組んだ様子を読み取ることができる。

自由記述欄の記載を見ると、自ら課題を設定することに難しさを感じたという学生が多かったが、多くの学生が調査を進めれば進めるほど新たな関心事が発生し、レポートにまとめる作業が大変だったという実感を抱いている。大半の学生が課題研究を経験し、その難しさと面白さを感じることはできたと判断でき、今後教壇に立った時の指導法の幅を広げることはできたと考える。一方で、課題研究は大変だ！面倒くさい！という感想をもった学生も多いと思われる。特に、小・中学生に課題研究に取り組ませることの難しさを感じた学生も多かっただろう。その点も含めて大学における主体性をはぐくむ授業としては意義のあるものであると判断できる。

（2）課題研究の進め方についての考察

課題研究を実施する際に、導入と課題把握にSDGsを用いることに効果があることについては後述する。課題設定を単にテーマ設定とするのではなく、リサーチクエストの形にすることが重要である。例えばプラスチックゴミの問題をテーマとするならば、それを自分の身の回りの課題にまで落とし込む、例えば、「武蔵野大学の学生が買い物の際にマイバックを使用してレジ袋を使うようにしたら、どれだけのプラスチックを節約できるか？」というリサーチクエストの形にすることで、単なる調査研究が課題研究に高まる。今年度の授業を通して実証することができた。

また、課題研究を実施するにあたっては、最終に研究発表の場を設定することが重要だと感じる。そのようなハレの場を設定することが、研究の動機付けや、やる気を高める。可能な限り、多くの観客が参加できるような大きな舞台を作りたい。

2 「【仮説2】課題研究の冒頭にSDGsを考える活動を位置付けることにより、自らの課題を捉えることが、より容易になる。」について

SDGs自体が、今日の世界的に重要な課題を幅広く示したものであり、それを理解し考えてみることで、そのまま、自らの課題を考えるきっかけ、発想を広げるツールとなる。

SDGsについて調べることを課題として、グループでディスカッションさせる活動のみでも十分その目的を達成することができるが、今回は、17のゴールを大切だと思う順に並べてみて、その結果についてグループで協議してみようという課題を設定した。このような視点を与えることにより、調査の広がりや深さが増すし、その後の議論もより自分らしい話に落とし込むことができる。

SDGsを取り入れた課題研究の授業については、昨年度の試行を基に今年度本格的に取り組

み始めたものであり、その結果と成果と課題が明確になるのは今後になるだろう。継続して検討を重ねていきたい。学科入門ゼミ、教職実践演習のプログラムについては、課題研究も含め、まだまだ不十分な点が多くあり、今後の担当者にさらに改良を重ねていただくことを要望する。

引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)」2012年8月
- 2) 松下佳代ら「ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために」2016年12月 勁草書房
- 3) 野中 繁「新教科“理数”をどう創るか ～スーパーサイエンスハイスクールの実践をもとに～」武蔵野教育学論文集 第5号(2018年)
- 4) 野中 繁「次期学習指導要領における理科教育の改善点と課題」武蔵野教育学論文集 第2号(2017年)
- 5) 武蔵野大学「武蔵野大学SDGs実行宣言」2019年3月
- 6) 岡本尚也「課題研究メソッド」2017年3月 株式会社振興出版啓林館